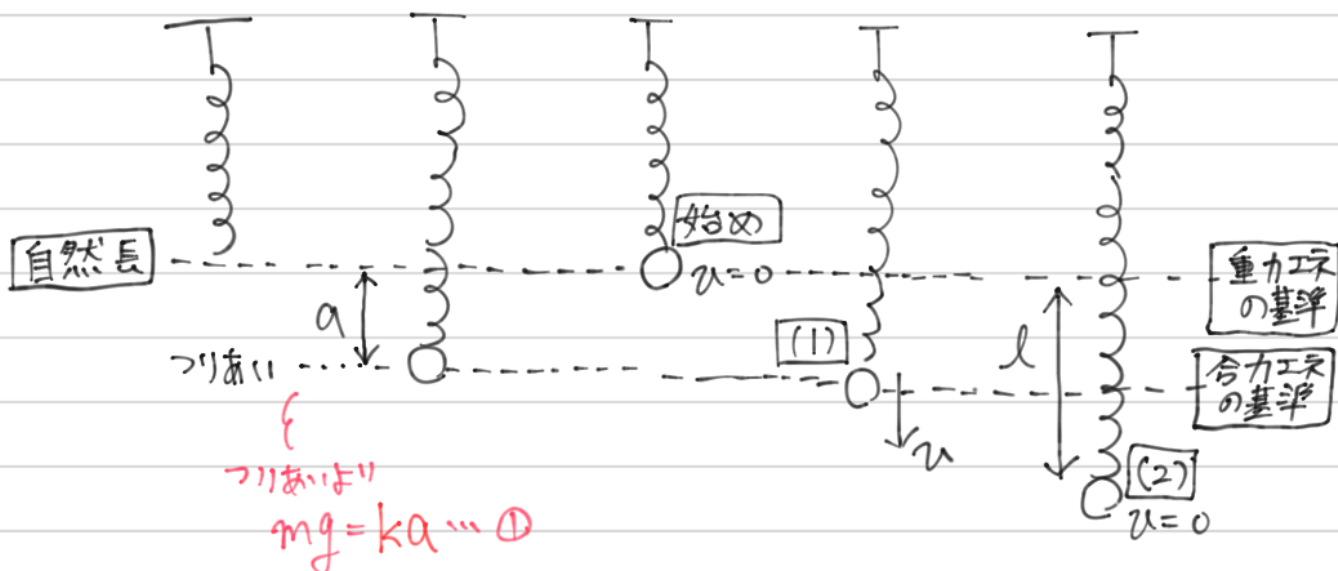


61



$v=0$ について [始め] の位置を重力による位置エネの基準として力学エネの保存の式を立てると、

$$\underbrace{0}_{E_{\text{始め}}} = \underbrace{\frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}ka^2 - mga}_{E_{(1)\text{のエネ}}}$$

①式より $k = \frac{mg}{a}$ 存のて

$$0 = \frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}mga - mga$$

$$\therefore v = \sqrt{ga}$$

* 前問 60 のように合力による位置エネの考え方を利用すると つりあいの位置を新しい自然長とすることで、重力が"消えた"ようなイメージで立式できる。 [始め] = [(1)] に立式すると

$$\underbrace{\frac{1}{2}ka^2}_{E_{\text{始め}}} = \underbrace{\frac{1}{2}mv^2}_{E_{(1)\text{のエネ}}}$$

$$\Rightarrow \frac{1}{2}mga = \frac{1}{2}mv^2 \quad (\because k = \frac{mg}{a})$$

$$\therefore v = \sqrt{ga}$$

61 続き

21について

始め と (2) の位置で 力学エネの保存を立式すると

$$0 = \frac{1}{2} k l^2 - m g l$$

始め (2)のエネ

$$0 = \frac{1}{2} \cdot \frac{m g}{a} \cdot l^2 - m g l$$

$$\therefore l = \underline{2a}$$

※ 合力による位置エネを使って立式すると

$$\frac{1}{2} k a^2 = \frac{1}{2} k (l - a)^2$$

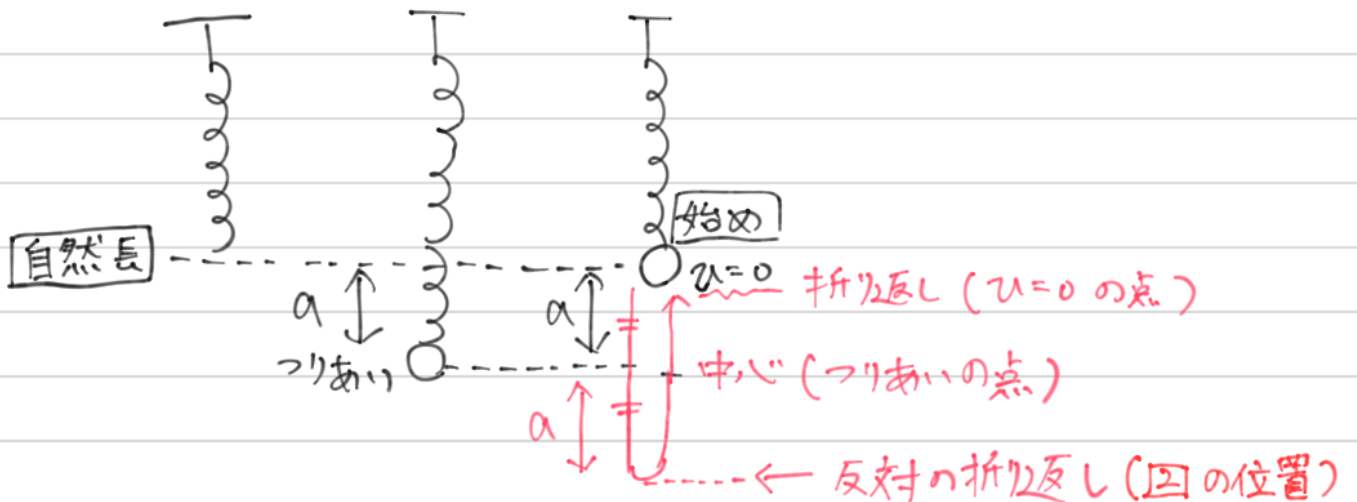
始め (2)のエネ

$$\frac{1}{2} k a^2 = \frac{1}{2} k l^2 - k l a - \frac{1}{2} k a^2$$

$$0 = \frac{1}{2} k l^2 - k l a$$

$$\therefore l = \underline{2a}$$

※ 単振動の中心と折り返し点の特徴から考えると



上図のように折り返し点がかかるので

$$\underline{l = 2a}$$

とわかる。